

米国移民規制政策の厳格化が生み出すメキシコへの帰還 —越境的な統治メカニズムとしての強制送還レジーム—

○キーワード：

米国移民規制政策、強制送還レジーム、デポータビリティ、越境的な統治メカニズム

○報告要旨：

報告者は、これまでアメリカ合衆国-メキシコ間（以下、米墨間）における移民の越境移動に着目し、米国の移民規制の厳格化が移民とその家族、そして送出し社会に及ぼす社会的影響を明らかにしようと研究を進めてきた。本報告では特に、米国における一連の移民規制政策を「強制送還レジーム」(De Geneva and Peutz 2010)として捉えた上で、それが帰国者、その家族およびトランスナショナルコミュニティに及ぼす影響をメキシコ側村落部に焦点をあてて検討した。具体的にはメキシコ、オアハカ州村落部における被強制送還者を含めた帰国者の実態を明らかにすると同時に、従来の帰国者の再適応をめぐる議論でみられるように帰国を個人的経験として捉えるのではなく、米国の強制送還レジームとの関連のなかに位置づけることによって、一つの統治メカニズムに影響された集団的经验として提示しようとした。

報告は具体的に次の二つの問いを中心に検討した。

- 1) 村落部のトランスナショナルコミュニティにおいて、「被強制送還者」として見做された者は、周囲からどのように位置づけられまた認識されているのか。
- 2) 強制送還レジームは村落出身者にとってどのような帰国を生み出しているのか。そしてまた、彼ら・彼女らは出身村への帰国をどのように経験しているのか。

調査に基づいた幾つかの事例を通じて、以下のように考察を試みた。被強制送還者であると見做された者は、米国政府が生成した「被強制送還者＝犯罪者」言説が村で受容・再生産されることによって村に脅威をもたらす、あるいは「汚れた(contaminado)」存在としてスティグマ化されている。加えて、村の伝統的なカルゴシステムの外部に存在することで不可視化され、周囲から「アウトキャスト」的存在として位置づけられているのではないかと。

また、米国において多くの移民は「非合法」であるがゆえの自らの脆弱性、すなわち常に強制送還に直面しうる「デポータビリティ」(De Geneva and Peutz 2010)を有した存在であることを認識している。そのため、村落部のカルゴシステムとも連動しながら（カルゴの役職を指名されるなど）、強制送還によるリスクを回避するために、あえて自らの意志で帰国する場合もあった。また、米国における滞在期間が長期化し、村の構成員としての責務を疎かにしてきた帰国者の中には（特に若者）、帰国後に村での生存権を剥奪されかねないリスクに直面する者もいる。更に、繰り返される越境の失敗によるトラウマ化によって米国への再越境を諦め村に留まらざるを得ない者が

存在している。これらの強制送還および帰国にまつわる経験が村内で共有されることによって、米国内で生成された「デポータビリティ」がメキシコにいなながらも内包され続け、恒常的に自由な移動から疎外される移民の姿が浮かび上がる。以上のことから、本報告では「強制送還レジーム」とは、米国内における政治テクノロジーとして機能するに留まらず、越境的に展開する統治性のメカニズムを有しているのではないか。そしてこの統治性とは、物理的で圧倒的な力による排除の形をとるのではなく、村において受容され再生産される強制送還に対するスティグマの言説、そして移民の移動を巡る様々な経験とそこから生み出され内面化された負の感情に起因しているものではないかと結論づけた。

コメンテーターの三澤健宏先生からは、国家レベルの（そしてグローバルに超え得る）統治メカニズムとメキシコのローカルな文脈におけるマイクロでの統治メカニズムが重複する部分、そしてカルゴシステムなどを通じて内生的に生じる村落コミュニティにおける排除のメカニズムの両方が存在する可能性をご指摘頂いた。加えて、「犯罪者」という概念も、米国における言説だけでなく村の論理から再構成されている可能性があることを示唆して頂いたことを踏まえて、今後更に調査・検討を重ねていきたい。また、他参加者からも様々な質問、コメントおよび批判を頂き、分析枠組みについての考察を更に深めるだけでなく、今後の研究の方向性を考える上でも意義深く重要な機会となった。

○主要文献

- Alarcón, Rafael and Becerra, William 2012 “¿Criminales o víctimas? La Deportación de Migrantes Mexicanos de Estados Unidos a Tijuana, Baja California,” *Norteamérica*, 7(1):125-148.
- Besserer, F. (2014) “Comentarios críticos y cinco propuestas para pensar la migración en el momento actual” *Desacatos* 46, sep-dec 2014. pp 88-105.
- Cassarino J. P. (2004) “Theorizing Return Migration: The Conceptual Approach to Return Migrants Revisited” *International Journal on Multicultural Societies (IJMS)*, Vol. 6, No. 2: 253-279.
- De Geneva, N & Peutz, (2010) *The Deportation Regime: Sovereignty Space and the Freedom of Movement*, Duke University Press Durham & London.
- フーコー・ミシェル著 小林、石田、松浦編 (2006) 「フーコーコレクション6 生政治・統治」
- Gibney, Matthew. (2008) “Asylum and the Expansion of Deportation in the United Kingdom,” *Government and Opposition*, 43(2):146-167.
- Hagan, Jacqueline M., Rodriguez, Nestor and Castro Brianna (2011) “Social Effects of Mass Deportation by the United States Government, 2000-10,” *Ethnic and Racial Studies* 34(8): 1374-1391.
- 飯尾真貴子 (2014) 「移民規制レジームによる重層的な剥奪の構造的メカニズム--からメキシコへの被強制送還者のライフヒストリーから」年報社会学論集 27 号 1-12 頁
- Inda Jonathan Xavier, (2006) *Targeting Immigrants: Government, Technology, and Ethics*. Blackwell Publishing.
- Kanstroom, Daniel (2012) *Aftermath: Deportation Law and the New American Diaspora*. Oxford University Press.
- Kearney, M. (1995) “The effects of Transnational Culture, Economy and Migration on Mixtec identity in Oaxacalifornia”, en Peter Smith et al. (eds), *The Bubbling Cauldron, Race, Ethnicity and the Urban Crisis*, University of Minnesota Press, Minneapolis, pp. 226-243.
- 岸雅彦 (2013) 『同化と他者化--戦後沖縄の本土就職者たち』ナカニシヤ出版
- 黒田悦子 (2013) 『メキシコのゆくえ--国家を超える先住民たち』勉誠出版
- 小井土彰宏 (2014) 「グローバリズムと社会的排除に抗するアメリカでの非正規移民運動--監視機構の再編と新自由主義的排除メカニズムへの対抗戦略の諸相」社会学評論 65(2): 194-209.
- Meneses G. A. (2014) “La frontera-gulag y las deportaciones de migrantes mexicanos” *Desacatos* 46, sep-dec 2014. pp 14-31.
- Stephen, L. (2007) *Transborder Lives: Indigenous Oaxacans in Mexico, California and Oregon*. Duke University, Durham and London.
- 禪野美帆 (2006) 『メキシコ、先住民共同体と都市--都市移住者を取り込んだ「伝統的」組織の変容』慶応義塾大学出版会